

付着生物調査結果（千葉港検見川の浜中央突堤）

調査地全景

平成12年度竣工の石積護岸。護岸の勾配は1:2である。
概ね、H.W.L.(高潮位)付近までは飛沫などで常に湿っていること、
M.W.L.(中潮位)付近まではアオノリ属等の藻類が繁茂していることで、
高さ(冠水頻度)の違いにより生物の生息状況に違いがみられる。



付着生物観察結果

調査年月日：平成17年3月27日12:30～13:30

観察位置	植物 (種名+被度%)	動物 (種名+個体数)
A.P.2.0m (H.W.L.)	—	アラレタマキビ(4) マガキ(10)隙間 イワフジツボ+ イボニシ(4)隙間
	アオノリ属20% アマノリ属 5%	カンザシゴカイ科+ イボニシ(4) タテジマイソギンチャク(2)
A.P.1.0m (M.W.L.)	アオノリ属70%	イボニシ(7) カンザシゴカイ科+ イソギンチャク目+ イソガニ(1)
	アオノリ属70% セイヨウハバノリ+	カンザシゴカイ科+ ミノウミウシ類(1) イボニシ(1) アメリカフジツボ(1)
A.P.0.0m (L.W.L.)	アオノリ属+ アマノリ属+ セイヨウハバノリ+	スゴカイイソメ(1) カンザシゴカイ科+ イソガニ(1) イボニシ(1)

石積の隙間は、イボニシ等の貝類や
イソガニ等の生息空間として利用さ
れている。

注) この断面図は、作図の都合上、実際よりも
横方向を縮めて(急傾斜になっています)。

海藻藻類（潮間帯植物）凡例

アオノリ属(緑藻類)

付着動物（潮間帯動物）凡例

タテジマイソギンチャク アラレタマキビ イボニシ マガキ ミノウミウシ類
カンザシゴカイ科 アメリカフジツボ

天端 A.P. 3.4m

H.W.Lより上部は乾燥に
強いアラレタマキビが若干
みられるのみである。

H.W.L. A.P. 2.1m

冠水頻度の高い場所では、
日射の当たる岩の表面は
主にアオノリ属(緑藻類)で
覆われる。
また、岩の陰や隙間には、
乾燥を嫌うカンザシゴカイ
科やイソギンチャク類などが
密集して生息している。

M.W.L. A.P.1.0m



H.W.L.付近の様子。
海藻藻類は生育しない。



M.W.L.付近の様子。
海藻藻類の着生上限と考えられる。



A. P. 0.5m付近の様子。
石の上はアオノリ属
(緑藻類)にほぼ全面が
被われる。

L.W.L. A.P. 0.0m



L.W.L.付近の様子。石の上
はアオノリ属(緑藻類)にほ
ぼ全面が被われる。



石の隙間(日陰)。カンザシ
ゴカイ科が多数生息。



石の隙間(日陰)。カンザシ
ゴカイ科、イボニシが多数生息。